**説教20230219　2コリ3：14-4：2マルコ2：18-22「新しいぶどう酒と革袋」**

**新しい布切れが古い服を引き裂き、新しいぶどう酒を古い革袋を破る。そのとき、新しい者も古い者も　ともに引き裂かれ、空しく流れ出てしまいます。その時、新しい者も古い者も、痛みと苦しみと悲しみの内に、その破れの時を経験せざるを得ません。**

**私たちの日常生活も、現代の国際情勢も、日々刻々と変化をし、一つの形にずっととどまり続けることはなく、時が来れば、主なる神の御計画に従って、その様子を変化させていきます。日本語では、その昔、ある文人が、「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人と栖(すみか)と、又かくのごとし」と歌いましたが、これは世の中が変化する有様を的確にとらえています。川の流れも、人々の暮らしも、消えては又起こされ、ずっと一つところに留まるということはないのです。**

**そんな移り行く状況のなかで、変わらない事と言うのは、ただ一つ、主イエスキリストだけであります。主イエスの御言葉はどんな時代でも、どんな状況でも、変わらない愛と希望の御言葉であり、私たちに変わることのない信仰を与え続けて下さいます。**

**今まさに時代が移り変わろうとしているこの時に、この地球上に住む全ての人たちが、ともに引き裂かれ、空しく流れ出てしまう痛み、苦しみ、悲しみを多かれ少なかれ味わわされています。この痛み、苦しみ、悲しみから逃れて、救われる道と言うのも、ただ一つ、イエスキリストの救いの道だけなのです。**

**２月６日に発生したトルコ・シリア大地震で多くの方々が亡くなられました。今なお救出の業が続けられています。私はその様子を画像で見るだけなので、その実態をつかみきれません。ただ、崩れ去ったがれきの山を前にして、人々が痛みと苦しみと悲しみの内に今、おられるということを覚えます。多くのものが引き裂かれ、空しく流れ出てしまいました。でも、私たちはその移ろいの中で、怒りや憎しみを生じさせてはならないのです。**

**崩れ去ったがれきの山を前にして、ただ一人、主イエスに救いを求めて彼にすがりつけば、痛み、苦しみ、悲しみはやがて主イエスによって癒され慰められます。**

**私たちはイエス様がいなければ、この移ろいゆく状況の中で、すがりつく相手をも変えて行ってしまいがちです。乳幼児が親に救いを求めてすがりつくのは、当たり前のことで喜ばしいことですが、中年になれば、その親も老人になっていますので、もはや親にすがりつくことは出来ません。そうすると、今度は、自分たちを取り仕切ってくれる有力者や、いわゆる親分にすがりつくことになるかも知れません。しかし、その有力者や親分もいつかはいなくなってしまいますので、その次は、と言った具合です。**

**しかし、私たちはイエス様と共に歩む時、そのような変化に翻弄されることはなくなります。目には見えませんが、いつも何処にでも変わらない姿でおられるイエス様に私たちはすがりつくことが出来るからです。そしてそこにあって、痛みと苦しみと悲しみは癒され慰められ、イエスキリストの喜びがもたらされます。**

**今日のテーマである、古いことと新しいこと、このことは、聖書と言う書物自体にも表れています。それは旧約聖書と新約聖書ということです。どちらも欠くべからざる神の御言葉でありますが、今日の聖書箇所では、その読み方について多くのことが教えられています。ではそのことを断食ということに関して具体的に見て参りましょう。**

**断食することは、キリスト教に限らず、人間はそれを自ずから行うことがあります。この世の中でも、スタイルをよくしたり、体重を落とそうとして、断食をする方々がかなり多くおられます。聖書では、どちらかと言えば旧約の民のほうが新約の民に比べて、熱心に断食を行っていたようです。両者とも神の御前に行う業として断食したのですが、だんだんと主なる神は旧約の民らが行う断食の業が気に食わなくなったのでした。その神の御言葉はイザヤ書５８章4節に具体的に記されています。**

**見よ／お前たちは断食しながら争いといさかいを起こし／神に逆らって、こぶしを振るう。お前たちが今しているような断食によっては／お前たちの声が天で聞かれることはない。**

**旧約の民たちが行っていた断食のスタイルがある註解書に具体的にこのように記されていました。「厳格なユダヤ人たちは毎週２日、月曜日と木曜日に断食した。但しそれは午前６時から午後六時まで続けられ、その後は普通の食事を摂ることが出来た」。**

**今日のマルコ福音書に出て来ます、断食していたヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々と言うのは、この厳格なユダヤ人たちに当てはまるのでしょう。彼らは月曜と木曜の朝６時～夕方6時にだけ断食をしたのでした。これを聴けば、もし彼らがそれなりに裕福な人々であれば、この断食を行い続けるのはさして苦行ではなかったのではないでしょうか。私はそんな風に想像します。なぜなら、断食の日の夕方6時になれば、彼らは十分に用意された食事を頂いていたからです。**

**それで、そんなある意味中身を伴わない、見かけだけの断食の業が招いた事態と言うのが、イザヤ書で神が語っている、人々が「断食しながら争いといさかいを起こし／神に逆らって、こぶしを振るう」という事態だったのでした。**

**そうして、イエス様がこの地上に来られて、新約の民たちが招かれました。そして新約の民たちである私たちに対し、イエス様は、婚礼の客のたとえを用いて、この断食に対する新しい見方を提示して下さったのです。**

**さて、何か今日の世の中で、結婚披露宴が催される機会が減ってきています。このことも時代の移ろいを感じさせますが、私たちは今こそ、イエス様が指し示される新たな喜びに向かって歩んで参りたいと願います。さて、その婚宴ですが、イエス様は「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。」と皆に問いかけられました。これは普通に考えて、ノーであります。花婿の門出を皆でお祝いする席で、一人私は断食していますという人はまずいないことでしょう。そんなことをすれば、その祝福の場に水を差すことになるからです。**

**このことをちょっと押し広げて黙想すれば、或る時、友人に食事に招待されて、その席に着いたはいいものの、そこで「私は今断食しているので食事は結構です」といって断ったら、友人は嘆き悲しむことでしょう。まあそんな人はいないと思いますが、イエス様が展開した婚礼のたとえ話はそういうことであります。**

**新約の民である私たちは、イエス様を信じて常にイエス様とともに歩む生活の内で、いつもそれなりに祝福を受けていますから、自分から断食しますと言い出す必要はないのだと思います。**

**そしてここからが、イエス様が言われる断食のまことの意味なのですが、「しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。」とイエス様は言われました。これはどういう意味なのでしょうか。これは、私たち人間は誰しもやがて時が来れば、断食をすることになるという意味です。その日は、花婿が奪い取られる時、即ち十字架の死の時であります。或いは十字架に付けられたような苦しみの時間を過ごす時のことであります。そんな苦しみもだえる時、私たちは食事が喉に通らなくなることでしょう。そしてそういう時間こそが、主なる神から与えられる試練である断食の時なのです。**

**そしてもちろん断食の時と言うのは、必ず開ける時がやってきます。明ける時が神の御計画によって保障されているのです。それが旧約の時代のように夕方６時とは決まっていませんけれども、十字架の死から解放されるのは復活の時であり、日常で食事が喉に通らない程の苦しみの時が明けるのは、イエス様の癒しと慰めの業が為される時であります。その時が、私たち新約の民の断食明け、即ち救われる喜びの時であります。**

**そして、そのまことの断食の時に私たちが入れられた時、実は私たちは、かえってやさしくなり、隣人に対して食べ物を分け与えるようにされると聖書には記されています。先ほどのイザヤ書の続きになりますがイザヤ書 58章 6節以下になります。**

**わたしの選ぶ断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、の結び目をほどいて／虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。**

**更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え／さまよう貧しい人を家に招き入れ／裸の人に会えば衣を着せかけ／同胞に助けを惜しまないこと。**

**そうすれば、あなたの光は曙のように射し出で／あなたの傷は速やかにいやされる。あなたの正義があなたを先導し／主の栄光があなたのしんがりを守る。**

**断食に入れられて、かえって隣人に食べ物を分け与えるようにされる、ということは信仰者には具体的に思い当たることがあるでしょうが、未だ信仰をお持ちでないこの世の方々は理解できないかも知れません。しかしこの分け与える喜びは、確かにイエスキリストとともに歩むこの上ない喜びであり、その時私たちは「あなたの光は曙のように射し出で／あなたの傷は速やかにいやされる。あなたの正義があなたを先導し／主の栄光があなたのしんがりを守る。」という誠に祝福に満ちた自らの姿を見出すことが出来るでしょう。**

**今日の２コリント書では私たちが主イエスといつも共に歩むということを、聖霊なる神の働きとして有意義に語っています。**

**コリントの信徒への手紙二3章 16節以下**

**しかし、主の方に向き直れば、覆いは取り去られます。**

**ここでいう主とは、“霊”のことですが、主の霊のおられるところに自由があります。**

**わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。**

**私たちは、この様に、いつも聖霊に満たされ、聖霊に押し出され、聖霊のほとばしりによって、日々、新たにつくり変えられた新しい命に生かされるようにされています。断食の苦しみも必ず明けて、その時私は、神の似姿に近づけられた自らの新しい姿を、何者にも代えがたい喜びをもって見出すことでしょう。**

**キリストの救いの道は滅びの道ではなく、苦しみの次に喜びが約束された、自由な解放の道であります。信仰と希望と愛を持って、その道を日々新たに歩ませて頂きましょう。**

**祈ります**

**私たちは、今週、灰の水曜日を迎え受難節に入れられます。御子イエスが断食をし、苦しまれながら、悪の誘惑に打ち勝たれたことを覚え、御名を賛美します。私たち一人ひとりも又、この地上の歩みにおいて与えられた試練の苦しみを、あなたによって喜びと変え、やがて来たる復活の希望を信じて、日々新たにつくり変えられ、あなたと同じ姿に近づいていくことが出来ますように。**

**私たちは試練のなかで苦しむことによって、かえって隣人に対してやさしくなれるものです。あなたが置かれたその愛に生きる道を、私たちに豊かに示して下さいますように。**

**今、病に苦しむ方々を覚えます。**

**「私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」**

**あなたは、私たちの体の衰えをも、復活の希望に生きる道を語り伝える勇気に変えて下さいます。限られたこの地上の日々の中で、今日この時にあなたのことを宣べ伝える勇気を私たちに与え奮い立たせて下さい。私たちの内なる人が日々新たにされ、豊かにされ、益々御子キリストに近づくことが出来ますように。**

**父と聖霊と共に**